

れ難きを思ひ、菅屋長頼の庇護を得て越後に逃走した。翌十年五月上杉景勝の部將越中魚津城に據り、信長は柴田勝家以下の諸將をして之を討たしめたが、この時景隆は越後に在つて、景勝の爲に能登を攪亂し、忠功を致さんことを誓うた。景勝は書を興へて之を激勵し、事若し成らば本領に安堵せしめんことを約したけれども、遂にそれを實行したことは見えぬ。然るに六月二日信長は明智光秀の爲に害せられたので、景隆等この機に乗じて能登を復せんとし、七月越中妻良浦に上陸し、石動山に入つて衆徒と戦を議し、荒山に壘柵を構へて之に據つた。七尾に在つた前田利家は乃ち尾山城の佐久間盛政に援を求め、盛政は荒山を攻撃した爲、景隆は吉川五右衛門の爲に、長盛は堀田新右衛門の爲に殺された。

ヌクカゲツク 温井景續 通稱五郎左衛門。某年三月七日付栗林庵文書に見える。

ヌクキツカムネ 温井孝宗 通稱兵庫助、後備中守。俊宗の嫡男。その名は永正頃から見え、享祿四年加賀に入つて大一揆を助け、十一月二日小一揆に破られて戦死した。法號大演性芸居士。天文十六年十七回忌辰にその子總貞が、鳳至郡輪島崎聖光寺に東福寺彭叔を招じて法會を營んだことは鐵酸館に見える。輪島重藏神社には大永四年の孝宗の棟札があつたといふ。

ヌクキツグムネ 温井續宗 通稱兵庫助。總貞の嫡男。天文廿二年十二月遊佐續光等加賀の一向一揆を率ゐて能登に侵入した時、續宗は父と共に奮戦して之を破つたことがある。その歿年に就いては明らかでない。

ヌク井トシムネ 温井俊宗 通稱備中守。

山田氏の家臣で、寶徳から文龜頃に互る。その藤原俊宗と記した明應二年九月の棟札は、鳳至郡別所谷の八幡社に藏せられる。

ヌクキフササダ 温井總貞 山田義總の代に於ける家臣温井氏の統領は、永正以降備中守孝宗で、享祿四年十一月孝宗の戦歿した後はその嫡男總貞が襲いだ。總貞初の名は兵庫助、天文十五年頃から備中守に改め、二十年に至りて備中入道紹春と號する。世に紹春の諱を景長と傳へるは誤である。その廿二年遊佐續光との争に勝つてから漸く憤懣の志を生じ、弘治二年長續連の爲に飯川肥前守義宗の邸に招かれて掩殺せられたことは、越登賀三州志に記載する所の如くであらう。

ヌクキミツムネ 温井光宗 通稱下總守。某年霜月廿三日付栗林庵文書に見える。

ヌケドジ 抜土地 鳳至郡小田の内の小字。

ヌシ 塗師 主として家具・器具に採漆を施すもので、鞘師は之に屬しない。この種の工人は、職業の性質上その名を傳へるものが殆ど無い。加賀藩では、寛永の頃甚兵衛といふ者が江戸から來たことがあり、遙か後文化・文政頃に塗師兵衛・村越某といふ良工があつたと言はれ、藩末に牧太四郎・鷹栖喜右衛門・米永太兵衛・車屋伊兵衛・永井與三兵衛等の名が残されるのみである。

ヌシマツリ 塗師祭 鳳至郡輪島の重藏神社で、今六月三十日・七月朔日に執行する祭事である。塗師業者が神恩感謝の爲にするもので、數十基の切籠が神輿に供奉する。

ヌシヤマツリ 塗師屋祭 江沼郡山中温泉なる東山遊園地に虚空藏菩薩の祠がある。毎年五月及び十一月の十三日に漆工等之を祀り、塗師屋祭と稱する。

ヌノイチ 布市 ↓ノノイチ 野々市。ヌノイチジヨウ 布市城 石川郡野々市に在つたものと富樫氏館址を布市城と書いたものもある。北陸七國志に、天正八年閏三月九日『柴田修理進勝家居城越前より加州へ亂入、湊川・手取川を打越え、宮腰に陣取り所々に放火し、布市城に楯籠る一揆等悉く追逐ふ。』といふ如きは是である。

ヌノウラ 布浦 珠洲郡木郎郷に屬する部落。能登名跡志に、『松波より布浦へ十四町、六ヶ所に別れてある村也。』とある。

ヌノガタキ 布ヶ瀧 江沼郡眞砂を去る東南六軒の山中に在つて、兩瀑がある。その雄瀧は大聖寺川の流で高さ二〇米。雌瀧は兜山から發し大聖寺川に注ぐもので高さ一〇米。

ヌノガタキ 布ヶ瀧 能美郡下野に在る。直下三〇米、幅一米餘。

ヌノコ 布子 藩政の頃、下郎の衣服で、今の木綿縮入のやうなものである。表裏を布にし、その中に茅花を入れて冬季に着用した。

ヌノハシ 布橋 能美郡輕海郷に屬する部落。

ヌノビキダキ 布引瀧 能美郡白山の赤谷の流が柳谷川に合する地點に近く、高さ二一米である。地圖白山圖幅に布引瀧と記してあるのは不動瀧で、柳谷とあるのは赤谷である。布引瀧は經緯圖幅にあるべきであるが註記がない。白山遊記には布瀧としてある。

ヌノマツリ 布祭 鹿島郡能登部下能登比咩神社で、今八月廿一日に執行する能登上布製造者の報賽祭を布祭と稱する。昭和四年から初めたものである。

ヌノメヨソエモン 布目與三右衛門 もと溝口土佐守に仕へ、寛永十一年前田利常に臣事して祿三百石を受け、十六年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

ヌノユカタ 布ゆかた 一冊。金澤の俳人百花堂文志著。正徳二年九月金澤三箇屋五郎兵衛板。この年夏句空は山中温泉に赴いたが、門人文志等はの上湯を祝する爲、留守中に歌仙を興行した。その附合と、句空が豫て諸國から集めて置いた發句とを併せて、この一編をなしたものである。文志は即ち三箇屋五郎兵衛であり、その序文中には句空の柳陰軒の形勢が可なり詳しく述べられてある。

ヌマダシヨウ 沼田庄 醍醐寺難事記天曆七年の文書に加賀國沼田莊があるが、所在は明らかでない。沼田は沼田の誤かも知れぬ。

ヌマダマチ 沼田町 金澤の町名。もと石川郡泉野の地内である。名義は元來沼地であつたに因るのだらう。

ネ

ネアガリ 根上 能美郡板津郷に屬する部落。

ネアガリマツ 根上松 金澤兼六圍なる千歳臺の中央に在る。前田齊泰の稚松を栽ゑたものといふ。樹高一二米、大小二五本の樹根が地を抜くこと一米八に達し、その最も太いものは周圍九〇釐を測る。

ネアガリマツ 根上松 源平盛衰記壽永二